

県高等学校ソフトボール代替大会に係る 新型コロナウイルス感染症防止ガイドライン

参加する選手、役員、顧問等は神奈川県高等学校体育連盟が定めた「代替大会を含めた各種大会等実施に係る新型コロナウイルス感染症防止ガイドライン（以下、ガイドライン）」（令和2年7月制定）を遵守し、特に次の「競技場の留意点」に従うこと。

- ① 十分な距離の確保
 - ア 競技の種類に関わらず、運動をしていない間も含め、感染予防の観点から周囲の人となるべく距離を空けること。
 - イ 強度が高い競技の場合は、呼気が激しくなるため、より一層距離を空けること。
 - ウ 水泳時などでマスクをしていない場合には、十分な距離を空けるよう特に留意をする必要があること（感染予防の観点から、できるだけ2 m以上少なくとも1～2 mの距離を空けることが適当である）。
- ② 運動中に、唾や痰をはくことは極力行わないこと。
- ③ タオルやペットボトル等の共用はしないこと。
- ④ 飲みきれなかったスポーツドリンク等を指定場所以外（例えば走路上）に捨てないこと。
- ⑤ 競技特性による感染防止については、各専門部の指示に従うこと。

試合当日にて提出する書類について

ガイドラインに則って、以下の書類を参加校は試合当日に提出すること。

- ① 生徒の健康状況チェックシート及び参加確認書【別紙1-1】
 - ※会場校責任者は参加状況報告書【別紙2】と照らし合わせた後、参加校に返却する。
 - 参加校は、30日以上保管し、期日経過後は各学校において、責任を持って適切に廃棄処分する。
- ② 参加状況報告書【別紙2】
 - ※会場校責任者は後ほど専門委員長（上野）へ提出すること。

各会場で罹患者および罹患の疑いがある者がでた場合は「新型コロナウイルス感染症を罹患及び罹患の疑いがある場合の対応例」【別紙4】を参照すること。

競技（種目）特有の感染症対策

① 競技者及び審判員に関わる事項

ガイドライに則って、会場校は「大会役員健康状況チェックシート」【別紙3】で競技役員（審判含む）の健康状況を確認し、後ほど専門委員長（上野）へ提出すること。

- ア 各チームのダグアウトを通常（約7m）よりも広く設定する。
- イ 試合に出場していない選手はマスクを着用する（プレー中の選手は例外）。
- ウ バット、ヘルメット、グローブ、打撃用手袋、ロジンバッグなどは各選手が使用し、可能な限り共用を回避するように努め、共用せざるを得ない用具については、こまめに消毒を行う。
- エ 選手、特に投手は指を舐めてはいけない。
- オ ベンチ内での選手間の距離は、できるだけ2m（最低1m）確保する。
- カ ベンチ内には消毒液を設置する。
- キ ベンチ内から声援や指示を出す場合は、対人距離に注意する。
- ク 試合前の打順表最終確認の際は、可能な限りお互いの距離を取り、監督、審判の握手は行わない。
- ケ 球審は捕手に触れないよう注意する。
- コ 監督が審判に近づく際は最低2mの距離を保つ。
- サ 球審は審判用マスクの中に飛沫防止用のマスクを着用するか、球審用マスクにフェイスシールドを取り付けて飛沫を防止する対策をとる。
- シ 試合開始時の整列及び礼は、球審の集合準備の合図で両チームがベンチ前に整列し、その場で礼をして行う。試合終了時も同様の形態とする。
- ス 円陣などで集まる際も、対人距離に注意する。
- セ 時間制を採用する（90分制）。
- ソ 90分を経過した時点で同点の場合は次のイニングからタイブレークに入る。
- タ 各会場の本部に消毒液を用意する。
- チ ベンチ内に消毒液を設置し、バットを共有する場合は必ず手指の消毒をさせる。
- ツ 試合ごとに新しいボールを使用する。
- テ 攻守交代時、試合球はベンチに持ち帰る。
- ト 攻守決定の時には、マスクを着用し、主将をバッターボックスに入れず、お互いの距離を保ち握手はしない。

② 観戦者（保護者及びその家族）に関わる事項

試合当日、学校入口において「観戦する保護者の健康状況チェックシート及び観戦確認書（以下、確認書）」【別紙1-2】を大会役員が確認し回収する。回収後、大会役員は参加校へ返却する。参加校は、30日以上保管し、期日経過後は各学校において、責任を持って適切に廃棄処分する。

- ア 観戦者に発熱（37.5度以上）、咳、倦怠感、咽頭痛などの症状が見られる場合には観戦を遠慮してもらおう※ホームページ等で事前告知する。
- イ マスク着用の呼びかけを行う。
- ウ 会場入口等に消毒液を設置。
- エ 観戦者に間隔を空けての観戦をしてもらう。
- オ 応援方法については、以下の行為を禁止する。
 - 1) 肩組み、飛び跳ねなど集団での動きを伴う応援
 - 2) 太鼓、トランペット等の楽器での鳴り物応援
 - 3) メガホン、スティックバルーンを使用するの応援
 - 4) 大声を出しての応援
 - 5) フラッグや応援タオルを振り回す応援

なお、試合中においては、審判部は日本ソフトボール協会のガイドラインならびに各都道府県策定の基準で対応するので、各チームは遵守すること。